

# 龍馬と学ぼう

## 日商簿記2級

### 日商簿記2級フリーテキスト講座

#### <工業簿記7> 総合原価計算

全5枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

## 1. 総合原価計算

チキンラーメン・じゃがりこ・チョコレート、私たちがコンビニなどで手に取るものは今までの個別原価計算で計算するでしょうか。

1か月に10,000個作るチキンラーメン（本当はもっと作っているはず）、1個ずつ直接材料費、直接労務費、製造間接費を原価計算表に書くでしょうか？

そんな事はありませんね。



チキンラーメンを1か月に10,000個つくった。

合計の原価は材料費が100,000円、労務費や機械のレンタル料金（減価償却費）が300,000円とします。合計400,000円の原価を10,000個で割れば40円という原価が計算できます。



10,000個つくって  
400,000円  
計算は簡単じゃ



このように大量生産に向く原価計算方法を総合原価計算といいます。  
ある意味簡単な考え方です。

でも、400,000円かかって、5,000個完成して5,000個が未完成だったら（袋に詰める前）1個あたり40円といえるでしょうか。言えませんね。単価を算出するには、同じ状態でなければ正しく計算できません。

もっと簡単にしましょう。

2個生産開始、材料は1個1,000円、完成するまでの手間賃（加工費といいます＝直接材料以外）が1個あたり1,000円とします。1個完成、1個は半分まで加工終了。

簿記の問題風に表現してみると、次のようになります。

材料代は2個に2,000円、加工賃は2個で1,500円かかった。

1個は完成し、1個は50%まで作業が終了した。

完成品の原価を計算しなさい。

合計の原価は3,500円です。

1個1,750円と考えるでしょうか？完成度が違うものを単純に割って単価はできません。

材料は1個1,000円です。2,000÷2です。これは納得です。

でも加工は1個と0.5個分、1,500円を1.5で割り1,000円の単価で計算すべきです。

これは板に塗装を施す作業で考えれば簡単に理解できます。



月末の段階でかかった材料費は2個で2,000円

手間賃（加工費）は1.5個分で1,500円

完成品 = 1個 × 進捗率 100% = 1

月末仕掛品 1個 × 進捗率 50% = 0.5

1,500円を完成品1.5個分で割ればいいのですね。

この計算の仕組みが分かれば、やはり総合原価計算は簡単です。でもこれだけだったら簡単すぎます。

試験では下記のような論点が問われます

①月初に在庫がある問題が出題されます。論点は単価の計算方法です。平均法と先入先出法があります。

②不良品のコストをどのように原価にONするか。仕損・減損というテーマです

③生産方法別の計算方法です。2工程以上の計算、2種類以上の（ほぼ）同時生産。工程別総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算の論点です。

④複数の材料を使用するパターン。実務では一般的ですよ。材料の追加投入の論点です

今日は①②の論点を説明します。頑張りましょう。

## 2. 月末商品の計算方法

次の資料に基づいて、平均法により、月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単位原価を計算しなさい。なお直接材料は工程の始点で投入している。

生産データ

		直接材料費	加工費
月初仕掛品	40 個 (80%)	272,000	230,400
当月投入	2,200	2,068,000	1,651,200
合計	2,600	2,340,000	1,881,600
月末仕掛品	600 (40%)		
完成品	2,000		

①平均法

②先入先出法

### 3. 仕損・減損

		直接材料費	加工費
月初仕掛品	なし	—	—
当月投入	2,200	660,000	540,000
合計	2,200	660,000	540,000
仕損	200 (終点)		
月末仕掛品	500 (60%)		
完成品	1,500		

#### ①完成品負担

#### ②両者負担